

# 府障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7 11  
府教育会館704号  
(TEL)6765-8904  
(FAX)6765-8905

## 強行可決から1年 韮公園に5千人、国会前2万3千人

# 改憲許すな！ 戦争法を廃止へ！



ポテッカードを掲げる集会参加者

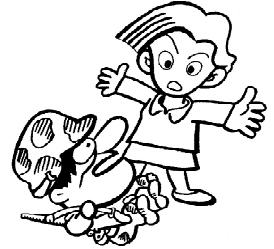
安倍政権による戦争法(安全保障関連法)の強行可決から1年となった9月19日、改憲許すな！戦争法を廃止へ！9・19おおさか総がかり集会(大阪府西区)で開催されました。時折雨も降るあいにくの天気の中、親子連れから高齢者まで幅広い世代の市民約5千人が参加しました。府障教の参加者は12分会21人でした。

止まっていたのは  
子どもたちの未来は守れない

集会には、民進党の辻元清美衆議院議員、日本共産党の辰巳孝太郎参議院議員、生活の党の渡辺義彦府幹事長、社民党の服部良一元衆議院議員

の各野党代表も参加し、スピーチを行いました。4野党代表は、参議院選挙では市民の声が野党共闘を実現し、発展させたこと述べ、国民の世論と市民の声があれば、野党共闘はこれからも続いていく。安倍政権打倒のためにさらに前進させようなどと、それぞれ野党共闘の発展を訴えました。

各分野からは、安居裕子さん(安保関連法制に反対するママの会)、塩田潤さん(関西市民連合)、新ヶ江章友さん(安保法制に反対する学者の会)、大湾宗則さん(元京都沖縄県人会会長)の4人がスピーチを行いました。安居裕子さんは、止まっていたのは子どもたちの未来は守れないと



気付いた。これからも一人でも多くのママや仲間たちといっしょに、すべての子どもたちのためにさらに幅広く社会に働きかけていきたいと述べました。

塩田潤さんは、参院選では結果的に改憲勢力が3分の2を超えた。けれども僕たちは悲観も楽観も、ましてや分裂している暇なんてない。持続可能な未来のために、何度でも効果的な一手を打ち続けるためにがんばろうなどと力強く訴えました。

集会の最後に、参加者は戦争する国絶対反対！のコールに合わせて一斉に「戦争法廃止」のポテッカードを掲げ、「改憲策動を許さず、戦争法の廃止、平和な沖縄を求め、いっそう力を結集し闘うことを宣言します」との集会宣言を採択しました。

集会後参加者は、戦争法は今すぐ廃止！憲法改憲絶対反対などとコールしながら、御堂筋を難波元町公園まで元気づくパレードしました。



集会後、難波までデモ行進しました

### 国会正門前行動に 2万3千人参加

9月19日は、戦争法の廃止を訴える集会やデモが全国各地で行われました。総がかり行動実行委員会が呼びかけた国会正門前の行動には、主催者発表で2万3千人が参加し、市民団体の代表や4野党の国会議員、学者、弁護士らがマイクを握り、市民と野党の共闘を進める決意の日になどと訴えました。

府障教ホームページアドレス <http://www1a.biglobe.ne.jp/fushou/> Eメール アドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp



経済協力開発機構 (ECCD) が、加盟国の国内総生産 (GDP) に占める教育機関への公的支出ランキングを発表しました。今回発表されたのは2013年度分で、日本はGDP比3.2%にとどまり、比較できる33カ国中32位でした。7年連続のヒリは免れたとはいえ、今回最下位のハンガリーが3.1%ですから、世界の最低水準であることは変わりません。ちなみに1位のノルウェーは6.2%、2位のデンマークは6.1%、ECCD平均は4.5%でした。

日本の教育への公的支出の少なさは、世界でも異常に劣悪な教育条件の根源となっています。欧米では、小中学校は1クラス20人、30人となつて久しいですが、日本では35人学級すら完全実施していません。民主党政権時代に、国会の全会一致で順次実施することが決められましたが、文科省は35人学級推進のための予算要求を3年続けて見送る始末です。

ECCD加盟国の半数は大学の学費が無償で、ほとんどの国が返済不要の給付奨学金制度を設けています。日本は大学の年間授業料が、国立約53万円・私立平均約86万円に加え、学生の半数以上が奨学金を借り、卒業時には数百万円もの借金を背負って社会に出なければなりません。多くの学生がアルバイトに時間を取られ、違法な働き方を強いられる「ブラックバイト」の被害も絶えません。

税金の使い方を換え、文教予算をせめてECD平均並みに引き上げれば、教育条件を大きく改善することができ、私的負担も減らせます。今年も教育全国署名の時期となりました。多くの皆さんのご協力をお願いいたします。



交流会には34人が参加しました

終業式も終わった7月23日、大阪市内でろう学校4校交流会(夏期特別企画)を開催しました。府立の聴覚支援学校4校から計34人が参加し、聴覚障がい教育を語る熱い交流会となりました。若い先生方もたくさん参加しました。

府障教の聴覚支援学校3校の分会では、これまで今月の市障教中央聴覚支援学校の分会と共同して、学期に一回のペースで集まりを持って交流してきました。今回は、夏期特別企画ということでも、ろう教育に長年関わってこられた先生方から、聴覚障がい教育で大切にできたこと、大切にしたいこと」をテーマにお話しいただきました。

生野聴覚支援学校を退職さ

れた森みちよ先生は、大切にできたこととして、子ども的人格を尊重することや指導のプロ意識を持つことという基本的なこと他に、指導に関わって、自分で学ぶ、人に学ぶ、子どもに学ぶという3つの視点を強調されました。教師であっても学ぶことから教師自身の成長があり、教育実践が深まっていくのだと改めて強く実感できました。支えあうことのできる職場づくりを大切に、働き方を考えてというアドバイスも心に響きました。

中央聴覚支援学校の吉村直子先生からは、ろう学校の教師にあこがれ、長い講師経験や他職種を経験した後に、正式採用された経緯をお話いただきました。たくさんの方の出会いの中で、子どもはもう一人を否定的に見てはいけないこと、子どもをちよっとした成長や可能性を見出し、あきらめずに日々の実践を続けていきたい、ろう教育に関わってこられた先生たちに魅力を感じて今の自分があり、後輩を育てる努力を惜しまない

## ろう学校4校交流会(夏期特別企画)を開催して

# 聴覚障害教育の熱さに感動! 一学期からも頑張れる!

ど、寄宿舎教育を含めたらろう学校や、ろう教育の専門性の継承など多岐にわたってお話しいただきました。

だいせん聴覚高等支援学校の福森玲子先生からは、だいせん校開校に至った歴史や開校以降の現状について報告いただきました。

堺聴覚支援学校の森訓先生からは、独自の美術教育の力、リキウムや行事等での生徒作品、困難を抱える生徒の人物劇やしりとり手話表現など、たくさんの実践を報告いただきました。子どもに安心感を与えられるろう学校でありたいという熱い思いが伝わって

きました。また、子どもと教育を視野に入れ、組合活動を通して教育条件の後退を許さない運動を続けてきた意義についても語っていただきました。

四人の先生方のお話はどうも子どもとしっかり向き合うことで、子どもとの関係を大切にできた実践と経験で

**参加者の感想です!**

どの先生からも教職への熱さ、ろう教育の熱さ、子どもが大好きなところが伝わってきて、自分が日々の仕事に追われている中で忘れかけていた初心を思い出しました。大変有意義な時間で、貴重なお話が聞けて良かったです。ありがとうございました。(20代)

4人とも、とてもろう教育に熱い思いをもって取り組まれていたというのが伝わってきました。ついつい「発音などノウハウばかり勉強しないといけない」と思ってしまいますが、本質の部分が聞けて良かったです。ありがとうございました。(30代)

## 先輩に聞こう!

Vol.11

高1の数学の授業を担当していますが、プリントや電卓での計算など同じようなことのくり返しになってしまいます。生徒が楽しく学べるようにどのように工夫したらよいでしょうか? 吉村遼(寝屋川支援学校分会)4年目

数学の授業を考える時に、主に次の4点を大切にしています。数学で出てくる式は自然現象を反映したもので、具体物を使って操作しながら考えさせる(私の場合は1辺が1センチの立方体を「タイル」として使います)。10進法を納得させる(10の合成・分解を大切に)。加減乗除にはそれぞれ意味があることを伝えることを大切に。高校生としてのプライドを大切に。などの点です。このように私は、数学の授業は「一生懸命に考える」時間にしてきました。

繰り上がりむつかしい子どもたちは、「数え足し」をしますが、タイルが10個集まると、10のタイル1本に変身するという「質的变化」が起こることを教えることが大切だと思います。

足し算が完全に出来なければ、割り算ができないかというそうではなく、「14÷3」を「14個のタイルを3人に平等に分けたとき、1人当たり何個もらえて、何個あまるでしょう?」という風に意味を教えながらタイルを操作させると、嬉々として割り算に取り組んだ生徒もいました。掛け算も同様です。

高校生であれば「文字式」や「正の数、負の数」も導入して教えることも、子どもたちをやる気にさせます。例えば「 $2a + 3b + 5a + 2b$ 」の式を、aをりんご(アップル)、bをバナナとして「2個のりんごと3本のバナナと5個のりんごと2本のバナナを合わせると、りんご何個とバナナ何個になるでしょう?」という意味であることを伝えれば、高校生としてのプライドをもって計算に取り組むことができると思います。

子どもたちは「新しい知識を身につけたい」「新しいことができるようになりたい」と思っていますので、「その意味」をていねいに伝えながら、いろいろなことを教えてあげたいと思います。(中元正文 豊中支援学校分会 38年目)